

「福井県文化振興プラン（仮称）」策定に向けたシンポジウムにおいての
意見募集の結果と県の考え方

全般

| No | 意見 | 意見に対する県の考え方 |
|----|--|--|
| 1 | 文化芸術とはこういうことだという、優しく分かりやすいことばでの定義づけがあると、県民誰もが関わっているということが理解しやすくなると思う。範囲の定義が「基本法による」では理解できない。 | 本文の第1章4 対象とする文化芸術の範囲に、文化芸術の定義について、追記しました。 |
| 2 | 市民主役事業にもっと力を入れてほしい。事業に関わるハードルが高いのではないかと思う。 | 本プランに基づき、県民主役の自発的な活動を応援し、発展させるとともに、誰もが文化芸術を身近に感じることができる環境を整えていきたいと考えています。今後は、県において、文化芸術活動に関する知見を有する専門スタッフを配した体制を整え、伴走型の支援の機能を強化し、相談・助言やマッチング、助成プログラム等を通じて活動支援を強化したいと考えています。 |
| 3 | プランに書かれた事業を実施していくには、関係団体との継続的な対話の場が必要だと思う。ぜひそういう場を作ってほしい。 | いただいたご意見を参考に、様々な機会をとらえ、関係団体等に対して本プランの内容を周知し、意見を交換する場を継続的に設けていきたいと考えています。 |
| 4 | 福井県はハーブの世界3大産地なので、ふくいハーブフェスティバルを復活させてはどうか。 | 現在、ハーブについては、県立音楽堂での年1回の「ハーモニーホールふくい オープンデイズ」にて、県民が気軽に触れることができる体験機会を設けているほか、全国で活躍するハーピストが出演する音楽公演も開催しています。 なお、全国では、観光誘客や関係人口の増加による地域活性化を目的とし、さまざまなジャンルのフェスティバルが開催されており、開催主体もさまざまです。全国の成功事例を参考にしながら、ハーブフェスティバルの復活開催を含め、検討します。 |
| 5 | 「誰もが触れる」というのは難しいので、各地域でも実感できる文化を目指してほしい。 | 本プランに基づき、身近に文化芸術を実感できるよう、地域の文化への理解を深め、これを残し、伝え、地域づくりに活用するなど、市町等と連携した取組みを進めます。また、デジタル技術を用いて、誰もが鑑賞、参加、創造できる機会を創出するなど文化芸術を身近に感じることができる環境を整えます。 |

| | | |
|---|--|--|
| 6 | <p>ソフト事業は県民の力でいろいろできるが、ハード整備は県民の力だけでは難しい。多目的ではなく、安価で使えるホールがあると文化芸術が活性化すると思う。</p> | <p>ご意見を踏まえ、県内のホールや公民館などの練習・発表ができる施設や使用条件等の情報発信を強化するとともに、誰もが気軽に表現活動を発表できる「まちなかステージ」をさらに拡充するなど、市町と連携しながら県民の文化芸術活動の場が増えるよう努めます。</p> <p>県立文化施設については、運営サービスや利便性を一層向上するとともに、他の文化施設や地域との連携強化を図り、県民誰もが文化芸術に親しみ、学ぶことができる場となるよう環境を整えます。なお、県立文化施設の利用料金については、利用環境の状況変化に合わせ、他の同等の公共施設と比較のうえ、利用に適した料金設定を検討し、必要な改定を行うこととなります。</p> |
| 7 | <p>計画期間5年間でプランに記載されていることの全てをクリアすることはかなり難しいと思う。振興プランの進捗や改善も議論し続けられる委員会や報告会の必要性を感じた。</p> | <p>今後、重点プロジェクトの事業進捗状況を把握しながら着実に実施するとともに、参加者アンケートなどから結果を検証し、フォローアップを行います。本プランの効果検証に当たり、各指標がどう変化し、その要因は何かなどの研究が必要ですので、ご意見のとおり、有識者や関係者から意見をいただく機会を設け、着実に進めていきたいと考えています。</p> |

目指す姿 1 誰もが文化芸術と触れ合い、自ら参加・創造し、心豊かに暮らす福井

| No | 意見 | 意見に対する県の考え方 |
|----|--|---|
| 8 | <p>文化芸術への参加者を増やすためには、それを阻害しているバリア（残業が多い、子育ての負担、受験など）の解決に向けて動く必要がある。</p> | <p>ご意見のとおり、社会全体で取り組むことが必要と考えています。超過勤務の縮減や子育ての負担軽減などについては、「ふくいNEW経済ビジョン」や「福井県子ども・子育て支援計画」等の個別計画に基づいて対策を進めており、ご意見を担当部局と共有し、今後の参考とさせていただきます。</p> |
| 9 | <p>創造者、表現者を育成する点に力が置かれ、鑑賞すること、鑑賞者を育てること、鑑賞者と表現者の橋渡し（交流を促すこと）の側面が弱いように感じる。</p> <p>県立美術館、県立音楽堂（福井県文化振興事業団）の役割を再定義することにより、両施設が単なるハコに留まらず、表現者の育成、鑑賞者の育成、表現者と鑑賞者の交流促進などのミッションを担うことで文化の底上げを図ることが必要ではないか。</p> | <p>対話型鑑賞の普及や、アート作品を介して様々な世代や立場の人をつなぐ人材「アート・コミュニケータ」の活動促進等により、文化芸術活動を支える鑑賞者の育成を強化するとともに、鑑賞者等と表現者（アーティスト）の交流機会を創出し、文化芸術活動へのさらなる参加促進を図ります。</p> <p>文化の底上げを図ることができるよう、ご指摘いただいた表現者・鑑賞者の育成や相互の交流促進を含め、県立文化施設のあり方や必要な機能の拡充について、有識者や関係者の意見をもとに検討を進めます。</p> |

| | | |
|----|---|---|
| 10 | <p>文化芸術活動を行う人への支援が中心に書かれているように思えるが、本県の場合、文化芸術に関心のある人が少ない。まず第一に必要なのは、文化芸術マインドを持った県民を育てることだと思う。</p> | <p>文化芸術に触れ、楽しみ、自ら創造・発信する県民の主体的な活動を応援することにより、文化芸術が暮らしの中にも浸透していくことが、文化芸術マインドを持った県民を増やすことにつながると考えています。このため、当プランに基づき、文化芸術活動実践者への支援だけでなく、より多くの県民が文化芸術に触れる機会を創出するとともに、次世代を担う子どもたちを対象とした鑑賞・体験プログラムの充実を図るなど、多面的、長期的に取り組んでいきたいと考えています。</p> |
| 11 | <p>福井県は文化施設への交通アクセスが非常に悪いので改善してほしい。1日で文化施設巡りができるようになるとよい。</p> | <p>県立文化施設については、バスや電車などの停留所や駅付近に設置しておりますが、点在していることもあり、ご意見のように、公共交通機関を利用して1日で複数以上の県立文化施設を巡ることは難しいと思われまます。</p> <p>今後、県立文化施設の運営サービスや利便性の一層の向上を図るうえで、いただいたご意見を参考にさせていただきます。</p> <p>なお、現在は、特に、嶺南地域から嶺北地域の県立文化施設を利用する場合の交通アクセスとして、音楽公演や特別展などの開催機会にあわせて、年6回、利用者専用のフレンドリーバスを運行しています。</p> <p>このほか、2館以上の文化施設を巡る旅行商品の販売を促すため、旅行会社に対する補助を行っています。</p> |

目指す姿2 みんなで地域の文化を守り、育て、未来へ引き継ぐ福井

| No | 意見 | 意見に対する県の考え方 |
|----|--|--|
| 12 | <p>伝統芸能の保存に携わっているが、少子化による後継者不足で非常に困っている。伝統芸能をいかに継承していくかが大きな課題だと思う。</p> | <p>伝統行事、伝統芸能など県内各地の豊かな地域の文化は、一つ一つが独自の価値を持つだけでなく、福井らしさを物語るものとして、地域の誇りや愛着を深めることにつながります。地域の文化の価値の一層の理解を図り、市町等とともに保存・活用策を検討し、必要な支援措置を講じていきます。</p> <p>また、地域の文化を支える人材の確保については、企業などと協働し、社会全体で取り組んでいくことが必要と考えており、例えば、ボランティア休暇の推進など企業が地域の伝統行事等に参加しやすい環境やしくみづくりを企業に働きかけるほか、社会貢献活動のマッチングシステムを活用し、保存・継承に関わりたい地域外の人と地元住民をつなぐなど、市町や団体等とともに対策を講じます。</p> |

| | | |
|----|---|---|
| 13 | 「施策の方向性3」の「若手アーティストの育成」は、おそらく専業または兼業のアーティストを想定していると思うが、アーティストを職業の1つとして就労や産業経済の面からもサポートし、自立できるよう支援していくことが大切だと思う。 | 今後、県内で活動するアーティストの人材データベースの充実を図り、アーティストと連携・協働したい企業とのマッチング支援を行うことによりアーティストの活躍の場を拡大するなど、アーティストの自立を支援する取組みを強化していきます。 |
| 14 | 自分自身、自主企画でコンサートを開催したりしているが、集客が大変なことも多い。行政が広報などに協力してくれるとありがたい。 | 随時、文化芸術活動を実践されている方の相談に応じています。また、活動者間の情報交換ができる交流会などを設けており、そうした中で、集客に苦慮するとの意見をいただいています。相談会では、活動者間の連携を促し、相互でPRを行うことや、他分野との合同イベント開催により集客拡大を図るなどの工夫を提案しています。 |
| 15 | 子どもたちが学校の授業の中で触れる美術・音楽活動が、自己表現できる楽しさに昇華できると、文化芸術を支える人の基礎を築けると思う。 | 学校の美術や音楽の授業は、次代の文化芸術を担う人材を育成するために大変重要です。学校教育の担当部局と情報交換を密にし、学校が活用しやすい体験プログラムを充実するほか、学校外での体験機会を拡充し提供するなど、相互に補い合いながら創造性豊かな人材の育成を図ります。 |

目指す姿3 文化芸術の新たな価値を創造・発信し、県民と訪れる人がともに楽しむ福井

| No | 意見 | 意見に対する県の考え方 |
|----|--|--|
| 16 | 福井県は地域ごとにたくさん文化芸術の「宝」がある。外部の人を招いて「外からの目線」でそれらを発掘してはどうか。 それぞれの地域の特色ある文化芸術を活かした市町単位でのアーティスト・イン・レジデンスを推進し、福井県がハブとなってネットワークを構成していく事業化ができると思う。 | いただいたご意見のとおり、外部の視点は重要であり、文化芸術に関する国際機関や国内美術系大学、海外のアーティスト・イン・レジデンス拠点などとの連携を図ることにより国際的な文化交流の機会を創出したいと考えております。また、県内各地のアーティスト・イン・レジデンス拠点のネットワーク化することにより、一層の交流拡大を図ります。 |